



—第20号—

地域・だいがく連携通信

—神戸大学地域連携ニュース—

神戸大学地域連携推進室
〒657-8501
神戸市灘区六甲台町1-1
TEL : 078-803-5391
FAX : 078-803-5389
E-mail : ksui-chiiki@office.kobe-u.ac.jp

第2回COC+シンポジウム～〈地域創生〉を育む環境づくり～



報告を聞く参加者ら

平成29年1月27日(金)に、標記シンポジウムを神戸大学瀧川記念学術交流会館で開催しました。

本シンポジウムは、若者や「知」の集まる大学が「地域創生」の担い手として期待されている中、本学で取り組むCOC+事業や地域活性化につながる取組の事例発表を聞く機会を設けることで、大学や自治体、地域の方々とともに〈地域創生〉に必要な支援や環境づくりを考えるため企画しました。当日は、自治体、経済団体、全国各地の大学関係者など約70名の参加がありました。

第一部では、県内企業と大学生をつなぐ「Mラボ事業」を取り上げました。まず、事業の狙いを経営学研究科森村 文一准教授が報告し、Mラボ事業に参加する大学の立場から、兵庫県立大学経営研究科長山口 隆英教授がコメントを行いました。さらに、Mラボ主催者の立場から、神戸新聞社地域総研企画調査部箸本 史朗次長が、事業についての紹介をしました。

第二部では、3団体の学生から活動内容や実際に活動を行っていく中での課題や難しさなどについて報告がありました。続いて地域連携推進室木原 弘恵特命講師から、地域をフィールドに教育研究を行う際の調整を担うコーディネーターの立場としての報告がありました。その後、人間発達環境学研究科清野 未恵子特命助教を司会に会場との意見交換を行いました。意見交換では、活動に関わる人を増やすための工夫や、活動に向かうモチベーションについて質疑応答がなされました。

会場ではシンポジウム終了後も積極的に意見交換をする姿が見られ、地域連携を軸に様々な人とのつながりを広げられた機会となりました。



灘区で活動を行う学生の報告



第2部での意見交換

ハッカに秘められた巨大商社のDNA ～灘区・鈴木薄荷の過去と今～

平成28年10月26日(水)、灘区との大学連携事業の一環として、“幻の総合商社”鈴木商店の系譜をひく鈴木薄荷を題材に、松蔭大学会館でイベントを開催しました。

まず、灘区地域活動支援コーディネーターの坪田 卓巳氏によるアイスブレイクで会場の雰囲気は温まった後、第1部で、神戸大学奥村 弘地域連携推進室長、鈴木薄荷(株)高畑 新一常務取締役、神戸新聞社小林 由佳経済部長・論説委員の3名を迎えトークセッションを行いました。第2部では神戸松蔭女子学院大学鳥居 さくら准教授による香りのワークショップとして、オリジナルのにおい袋を作りました。

ミントの葉を浮かべたレモネードやハッカコーヒーがふるまわれ、約70名の参加者ともども楽しい一時を過ごすことができました。



神戸大学・神戸市看護大学・園田学園女子大学 3大学合同報告会「プラットフォーム」

平成28年10月15日(土)、本学が取り組むCOC+の子育て高齢化対策領域事業の一環として、標記シンポジウムを園田学園女子大学で開催しました。各大学の学生や教員、市民など約100名の参加がありました。

第一部は、「みんなで考える少子高齢化社会」と題したシンポジウムが進められました。まず、本学の高田 哲教授より「少子化と子育て支援」について、続いて神戸市看護大学の相原 洋子准教授より「高齢化と地域コミュニティ」について、最後に園田学園女子大学の大江 篤教授より「地域資源としてのひと・もの・こと - 記憶とまちづくり -」について、各大学の活動を踏まえながら参加者へ向けて解説と問題提起がなされました。少子化・高齢化のそれぞれの問題点から、ソーシャルキャピタルという大きな視点まで話題が広がりました。総合討論は、園田学園女子大学の野呂 千鶴子教授が座長として進行され、広い範囲の意見交換が行われました。

第二部では、各大学の取り組みに関するポスターの掲示と、参加者による情報交換会を行いました。

第三部では、「各大学における地域での取り組みと成果報告」が代表学生によって発表されました。学生同士の質疑応答も積極的に行われ、学生が他大学の活動に興味を持っている様子が伺えました。学生が主体的に地域活動に参加することの重要性が改めて確認されました。最後に神戸市看護大学の石原 逸子教授の閉会挨拶があり、3大学が連携して事業を推進していくことの意義を改めて確認しました。

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業 COC+「子育て高齢化対策」領域シンポジウム
平成28年度
神戸大学・神戸市看護大学・園田学園女子大学
3大学合同報告会「プラットフォーム」

平成28年10月15日(土) 参加無料/定員140席
開場 13:00 開会 13:30

会場 園田学園女子大学 3号館2階 321教室
〒661-8520 兵庫県尼崎市南塚口町7-29-1
・阪急「塚口駅」南出口より徒歩10分
・阪急「塚口駅」からバス(園田学園女子大学下車)徒歩1分
・阪神「塚崎」からバス(新塚崎1丁目下車)徒歩1分
・JR「立花駅」からバス(園田学園女子大学下車)徒歩1分

目的 兵庫県は少子高齢化に伴う人口減少が加速しており、地域での子育て支援や高齢化対策は急務である。兵庫県内で医療福祉専門職養成課程を有する3大学が連携し、これまで各大学が培ってきた地域社会形成のための教育研究の成果・知見を持ち寄り、情報共有を図る。

第1部 シンポジウム「みんなで考える少子高齢化社会」
神戸大学・神戸市看護大学・園田学園女子大学より、それぞれの大学での取り組みを踏まえながら少子高齢化社会の現状や子育て支援・高齢化対策の実践について解説する。
議題：
①「少子化と子育て支援」
②「高齢化と地域コミュニティ」
③「地域資源としてのひと・もの・こと-記憶とまちづくり」

第2部 ポスター掲示・情報交換会
各大学の活動をポスター掲示し、参加者が情報交換を行う。

第3部 学生の部「各大学における地域での取り組みと成果報告」
各大学の学生が、地域での活動や取り組みの紹介、活動から得たことについて報告する。

地方創生に関する文部科学省の公募事業で、兵庫県では「地方創生に資する実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム」事業が採択されました。事業協働機関が一体となって地域の課題解決に取り組みます。
神戸大学・園田学園女子大学
神戸市看護大学・神戸市看護大学・園田学園女子大学
兵庫県・神戸市・神戸商工会議所・兵庫県経営者協会・兵庫工業会・神戸新聞社

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業 COC+とは？

MUSUBU

主催：神戸大学医学部保健学科・地域連携センター、神戸市看護大学、園田学園女子大学
共催：ひょうご神戸プラットフォーム協議会
後援：尼崎市、尼崎市教育委員会、尼崎市社会福祉協議会、尼崎商工会議所



第1部：総合討論の様子



第2部：ポスター掲示の様子

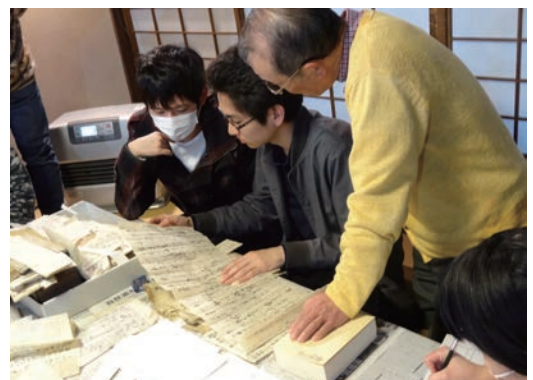


第3部：学生による報告

三木市で古文書合宿を行いました

平成29年2月17日(金)・18日(土)、三木市旧玉置家住宅(本町、国登録有形文化財)で、文学部・人文学研究科学生39名が参加し、古文書合宿が行われました。これは、地域歴史遺産の保全・活用を实践できる地域リーダーの養成を目的とする授業科目(「地域歴史遺産保全活用演習」等)の一環で、文献史料の取り扱いや目録作成等の基礎的な技能の習得を旨とするものです。

三木市と神戸大学は、平成25年に連携協定を締結しています。この授業は、旧玉置家住宅での歴史文化を活かしたまちづくり活動と学生教育が互いに関連を持ちながら実施されています。最終日には、三木市の市民を交えて、史料の内容を検討する報告会が開催されました。



古文書合宿の様子

熊本地震復興支援まちづくりシンポジウム

—地域社会の復興に向けて—



学生震災救援隊からの報告

平成28年12月10日(土)、本学が取り組むCOC+の安心安全な地域社会領域の一環として、標記シンポジウムを開催しました。約45名の方々に参加いただき、熊本地震で被災された方々の現在の生活状況や復興の状況とその課題を共有し、住民を主体とした安心安全なまちづくりについて意見交換を行いました。

第一部では、熊本地震復興支援の取組の報告として、まず、人と防災未来センターの荒木裕子主任研究員より「益城町における避難者対応調査」について報告がなされました。続いて、神戸大学学生震災救援隊の代表学生より、熊本派遣報告として避難所や仮設住宅、小学校等での支援内容と被災

地の状況について報告がなされました。

第二部では、住民参加型のまちづくりの取り組み事例紹介として、熊本大学の円山琢也准教授より、避難所対策チームでの活動や益城町復興計画の全体状況、仮設住宅での聞き取り調査の結果について報告がなされました。

パネルディスカッションでは、21年前に被災した長田区在住の2名の語り部の方を交えながら意見交換が展開されました。

最後に、都市安全研究センターの北後明彦教授より閉会挨拶があり、神戸と熊本の方が語り合いながら、被災地の復興に繋げていくことの必要性について改めて確認しました。

翌日には「真野地区と鷹取駅を巡るまち歩き会」を開催しました。15名の参加者と、21年間の復興過程を経験してきた西神戸の町並みを見ながら、介護施設の運営に携わっている方、商店街で働いている方、喫茶店を経営している方等、地域を支えてきた多様な方々と交流する機会に恵まれました。



まち歩き会の様子

神戸大学・篠山市 農村イノベーションラボがオープンしました

農村地域における、「まち・ひと・しごと」の創造的な循環を生み出すことをめざし、平成28年10月、JR篠山口駅に直結した場所に「神戸大学・篠山市農村イノベーションラボ」が開設されました。神戸大学農学部的前身である旧兵庫農科大学があった篠山では、農村実習などを中心に、大学の教育研究のフィールドとして多くの学生や研究者がかかわってきました。メインプログラムとして提供される「篠山イノベーターズスクール」は神戸大学の

様々な分野の教員が協力しています。平成28年10月3日(月)には開所式が行われ、酒井篠山市長や内田一徳神戸大学理事・副学長らから挨拶が述べられ、農村イノベーションラボへの期待が寄せられました。



テープカットの様子



JR篠山口駅すぐのラボ

神戸大学・神戸市連携推進協議会を開催しました

本学と神戸市は平成25年に包括連携協定を締結し、現在では90以上もの連携事業を進めています。それぞれの進捗状況や課題を共有するために、平成29年2月10日(金)に第2回目となる連携推進協議会を開催しました。

今回は『大学と連携した新たな子育て支援事業(あいちを中心とした事業)』、『高経年住宅団地の再生に関する調査・計画事業』、『安全な都市づくりに関する連携』、『地(知)の拠点大学による地方創生推進事業』の4つを取り上げ、報告や意見交換を行いました。

協議会での多方面からの議論を経て、さらに事業が深化し、次の連携の広がりにつながることが確認できました。



神戸大学で開催された協議会

活動報告(2016年9月～2017年2月)

9月 03日	(保健)	保健学研究科地域連携センター「第10回 cinema café」
17日	(人文)	明石市立文化博物館企画展「明石藩の世界Ⅳ一藩領の村々と大庄屋一」(～10/16)(人文学研究科地域連携センター)
10月 03日	(農学)	神戸大学・篠山市農村イノベーションラボ開所式
12日	(大学)	平成28年度第1回COC+推進委員会
15日	(保健)	COC+子育て高齢化対策領域シンポジウム 神戸大学・神戸市看護大学・園田学園女子大学 3大学合同報告会「プラットフォーム」
15日	(人文)	まちづくり地域歴史遺産活用講座(人文学研究科地域連携センター)(～16日)
24日	(法学)	久元・神戸市長による「行政学」講義
26日	(大学)	ハッカに秘められた巨大商社のDNA～灘区・鈴木薄荷の過去と今～
11月 12日	(人文)	地域歴史文化フォーラム「地域歴史文化継承における大学と研究機関の役割ー広域災害への備えと人材育成ー」
12日	(保健)	「認知症とその予防について」(保健学研究科地域連携センター)
18日	(農学)	農学研究科地域連携研究セミナー(A-Launch)「好き嫌いは遺伝か?環境か?!ー味がヒトに及ぼす作用ー」
27日	(工学)	都市安全研究センターオープンセンター「みんなで考えよう安全・安心で快適なまちづくり」
12月 10日	(工学)	熊本地震復興支援まちづくりシンポジウムー地域社会の復興に向けてー
11日	(工学)	真野地区と鷹取駅をめぐるまち歩き会
1月 21日	(農学)	篠山市・神戸大学地域連携フォーラム
27日	(大学)	第2回COC+シンポジウム～〈地域創生〉を育む環境づくり～
28日	(保健)	保健学研究科地域連携センター報告会
29日	(人文)	歴史文化をめぐる地域連携協議会-つながりを生み出す環境づくり-
2月 10日	(大学)	神戸大学・神戸市連携推進協議会
12日	(保健)	災害時の要援護者に対する支援セミナー

お知らせ

当室では、多様な地域活動を支援するため、教職員を対象にした「地域連携公募事業」、学生の地域活動を支援する「学生地域アクションプラン」を公募しています。また、灘区との協力協定に基づく「大学と連携したまちづくりチャレンジ事業助成」も募集しています。詳しくは、ホームページをご覧ください。神戸大学地域連携推進室 <http://www.office.kobe-u.ac.jp/crsu-chiiki/>

